

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛 I		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	令和4年9月15日	評価結果市町村受理日	令和4年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中、地域との交流やふれあいが少なくなりました。利用者が地域と繋がりがりながら暮らし続けられるよう、感染レベルが緩和した際は、感染対策を講じ地域の清掃活動に参加するなど交流の継続を行った。また、地域の一人として花壇の水やりなどにも積極的に参加している。利用者の健康管理に関しては、協力医療機関による月2回の訪問診療と24時間の緊急時対応がなされるなど、医療機関との緊密な連携を図ることが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この地に開設して12年、ホームの存在が入居者・家族・近隣住民の拠り所として根付き、自粛生活を余儀なくされる状況の中、日々の散歩や野菜作りから収穫等入居者の生活機能維持が楽しい生活へと繋げる等事業目標として掲げる「利用者の訴え・発信する情報をしっかり捉え尊重する」を具現化している。家族の窓越し面会にトランシーバーを使用する等家族の思いにも寄り添い、主体的な入居者の生活を見守り、温かく明るい雰囲気を出している。職員体制に変動もなく、意思疎通の良い関係とお互いが気遣いながらの支援は入居してもあまり変動のない入居者の様子に表われており、職員のケア力が発揮されている。玄関には近隣住民から寄せられた草花が彩るホームであり、ホームの灯りが地域に安心感や力を与え、住民との良好な関係性が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共生の生活づくり」を基本理念とし、更に事業目標を具体的に設定することで、職員が共有でき実践へと繋げられている。	グループリビング、共生の生活づくりを基本に置き、介護職心得10ヶ条を謳うと共に、事業目標として3項目を掲げている。毎年全員で掲げる目標を職員のケアの方向性の統一や具体的なケアに直結させ、ケアマネジャーや実践者研修等自己研鑽として意欲的な姿勢で臨んでいる。ホームに灯りがともることで地域に安心感や力を与え、住民との良好な関係性が築かれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域交流は少ないが地域の奉仕作業に利用者に参加するなど、地域住民との関係性が途切れないよう努めている。	地域住民との交流は難しい状況にあるが、玄関に野菜や草花が持ち届けられる等近隣住民との関係性は築かれ、住民との挨拶や散歩時の歓談、入居者と職員が奉仕作業として草取りや水やり等出来ることで地域に関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実践経験を活かし、地域住民の相談を受ける等支援を対応していたが、コロナ禍で行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、開催はできていないが、書面にて情報を発信している。行政や地域の方、民生委員へは直接手渡し、意見や要望を聞き取りサービスに活かすことが出来ている。	コロナ感染症の状況により、対面での開催若しくは書面による情報提供としている。書面審議時には報告書を直接持ち届けながら助言等を収集しケアに反映させている。委員からの事故に関する助言や、土砂災害時の避難場所として安全性の高いホームの存在が期待される等地域への還元も視野にした話し合いが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政へは常に現状報告を行っている。行政からの通達はメールで届いているため、感染症対策など情報を反映させている。	行政へは人事面等質問事項として提出する等不明な点は随時相談し、コロナ感染対策等情報がメールにより寄せられている。地域包括支援センターからの研修案内(権利擁護等)に職員が参加する等行政等との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に、定期的に話し合いを実施、全職員に拘束をしないケアを徹底している。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、他の職員にも情報を伝達している。法人全体でアカデミー研修を視聴する体制として身体拘束や虐待防止等共通理解としている。自由な環境にあり、外出傾向の高い入居者対策として、家族に説明し了承を得たうえで民生委員や地域代表等に入居者の状況を説明している。職員の口調にはお互いが注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で高齢者虐待防止関連法について確認し、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識を深めることに努めている。該当者がある場合は、関係機関に助言、指導など求めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、家族が納得いくような説明を心掛け、不安や疑問について十分な説明を行っている。また、利用料金変更の対応なども随時説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で、家族面会や家族会など意見や要望を受ける機会が少なくなった。定期的な電話連絡や面会時などに聞き取り、サービスの質の向上に努めている。	コロナ禍により家族との対面での聞き取りは難しいが、窓越し面会や玄関先での面会時等その折々に意向を聞き取りしている。家族宛に送る写真付き手紙や、訪問時等家族から「顔を見るとそれが応え」と穏やかな表情に職員のケアが表われているとの声上がり、職員は入居者の声に耳を傾けている。ホーム内外の苦情相談、及び第三者委員の氏名や電話番号など明らかにしている。	家族の不安払拭に、入居者と家族が直接声が聞こえるようにトランシーバーを活用する等工夫されている。家族会の開催も難しい状況にあり、コロナ感染症の状況によっては、家族との交流会の開催に向け検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの意見や要望を聞く機会を設ける等、動きやすい職場環境に努めている。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、職員からの意見等は業務改善委員会で検討する体制としている。毎月の職員会議により行事や業務等話し合い、大事な案件はグループラインを通じて共有している。コロナ感染対策が少し緩和され、職員同士が助け合い、年休の取得を推奨しリフレッシュを図る等働きやすい環境を整備している。また、アカデミー研修の視聴により職員個々のスキルアップに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見を聞く機会を設け、向上心を持って働けるような配慮や対応に努めている。また、業務改善委員会を毎月開催し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、管理者や職員一人ひとりの力量に合わせた、研修を動画で受けている。外部研修に関しては、WEB研修に参加するなど知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水俣、芦北グループホーム連絡会で情報交換等を行っていたが、コロナ禍で開催されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅へ訪問し、生活状況や本人の不安や要望等を聞き取り、関係作りに努めている。また、スタッフ間で情報共有できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を密に行うことで、家族の意向や要望、不安などしっかり受け止めながら、関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、家族、本人の希望や要望を伺っている。状況によっては、関係機関と連絡を取り合い、必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しやりたい事、出来る事を見極め共に関わり、一緒に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取り生活状況、心身の様子等を家族に伝えている。家族の意向を聞きながら、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において継続は難しいが、できる限り馴染みの場所を訪れるなどの支援に努めている。	病院受診時に自宅に立ち寄ることはあるが馴染みの場所への支援はコロナ禍に控えている。お盆の饅頭やおくり団子、彼岸のおはぎ作り、柳餅作り等、慣習の継続等今できる支援に努めている。お金を使うこと(パン購入等)、社会性も視野にした支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。また、利用者が孤立しないよう、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状態把握に努め、必要に応じて相談を受ける体制を取っており、これまでの関係性を断ち切らないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話やコミュニケーションから、本人様の希望や思いを把握し実践へと繋げている。困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談しその都度対応している。	入居者の一言が(パンが好き)からの話し合いが、入居者自身での支払いに繋ぐ等日々の生活の中で入居者の声を聞き取りしている。入居者の中には声に出されない事もあり、簡単に選択できる声かけや表情で推察し、ケアに反映させている。毎日外に出たい等本人がやりたいことに注視しながら、本人の思いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、利用者からコミュニケーションの中で、情報を収集し日頃のサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時に個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望、また日頃の職員の気づきなどを取り入れながら、チームで話し合い介護計画書を作成している。	入居者及び家族の意向等を把握し、担当制として日々の様子や毎月の話し合い、3ヶ月毎の評価により達成度や本人及び家族の満足度を踏まえたプランを作成している。更新時にはアセスメントからの見直しや、退院後の生活についてのカンファレンスにより修正のための新たなプランなど現状に即した具体的な且つ個別のプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。また、日々の状態を申し送ることで情報を共有し、実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者や家族のニーズに対し、出来る限り実現できるよう柔軟な対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため積極的な実施はできていないが、コロナが緩和された時は、通いの美容室など本人の思いに添って出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と24時間の緊急時対応がなされ、より適切な医療が受けられている。また、専門医へは家族の希望を大切に、医療を受けられるよう支援している。	本人・家族の了承のもと、法人関連の医療機関による月2回の訪問診療や緊急時対応がなされている。専門医については入居時に家族による受診として、管理者も同行しながら情報を発信している。歯科については連携の歯科医であればホームで、他は、家族に对应されている。職員は入居者の表情や動き、食欲などで異常の早期発見に努めている。また、バイタルチェックを1日1回と、入浴時の他、必要に応じ7、11、15、19時等で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に看護師へ、状態や気づきなどを伝え相談することで、適切な診療や看護を受けることが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族に、回復状況の確認や情報をいただいている。また、主治医とは週1回の定例会議の中で、情報交換や相談ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくると、ホームでは対応できないことを入居前に説明を行っている。自分達に出来る支援の関わりを尽くし、入院などに至るまでの充実した対応を心がけている。	入居時に看取り支援は行わないことを伝え、介護度が3以上になられたら、特養施設への移行をお願いし理解を得ている。今後も、全職員で日頃のケアを大切に取り組んでいきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を定期的実施していたが、コロナ禍で行えていない。対応に不安な時は、管理者やかかりつけ医へ24時間連絡が出来るよう体制を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の災害訓練を行っているが、コロナ禍のため、近隣住民との合同訓練が実施されていない。	年3回の避難訓練を実施しており、3回目を火災・自然災害訓練として11月後半に予定している。コロナ禍により消防署の参加を得た訓練は難しく、電話通報のみで行い、1、2回目の訓練後は、通報の順番について見直しが行われている。居室入り口には、避難済み確認用のタスキを掛け、コンセントの埃を含め、ホーム内外の安全チェックは月当番で実施し、災害備蓄はリストをもとに確保している。	近隣住民との合同訓練は行っておらず、近隣住民や家族の参加協力を得ながら、災害訓練が行われることが期待される。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いや気持ちを尊重しながら支援にあたっている。誇りやプライバシーを損ねないよう、スタッフ間で話し合い対応している。	法人のプライバシーに関する研修会に参加し、周知徹底を図っている。呼称は苗字を基本とし、馴れ合いの言葉使いなどにも十分注意を払っている。整容や身だしなみにも気を配り、特に髪形については、入居時の髪形は気に入ったスタイルであることを理解し、そのまま継続できるよう理美容店にも意向を伝えている。自己研鑽に努める職員のケアカや入居者を大切にした支援が、幅広い年齢の職員によって実践されている。	入居時の髪形を職員は写真などで把握し、継承するなど細やかな取組が聞かれた。その人らしい日々の暮らしが継続できるよう、変わらぬ支援に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、表情や反応を注意深く観察することに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者の状態や要望に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装などの好みを把握し、個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への感想を検食簿へ記入することで、次の食事支援へと繋げ、楽しみのあるメニューを心掛けている。時々ではあるが、利用者と一緒に下拵えを行っている。	献立は季節や郷土料理、入居者の好みを取り入れ、各ユニットで調理をし、検食簿が献立作成に活かされている。野菜などは近隣者からの差し入れに加え、入居者と一緒に栽培する野菜も利用している。入居者の要望は特に大切にし、誕生会食や夏場でも「ぜんざいが食べたい！」の声があれば、おやつ時に職員が腕を振るっている。入居者の出番も多く、もやしの根切りや下拵え等共に行っている。	畑で収穫したピーマンを皆で愛で、肉詰めに活用するなど、入居者と食を楽しむやり取りが見られた。食材購入から調理へと職員の努力が窺われ、今後も食を楽しむ支援の継続に大いに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物や飲み物の好み、習慣を把握し食事量や水分量を確保している。また、体調や体重の増減、食事のタイミングや食器の工夫など一人ひとりに合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状況に応じたケアを毎食後行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。必要に応じ、歯科受診を受けられるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握している。紙パンツ使用の利用者へも、表情などから声掛けや誘導を行っている。	個々の排泄パターンを共有し、自立の継続や必要な見守り、声掛けを行っている。現在、布パンツとリハビリパンツ使用者が半数ずつである。トイレ内は清潔に保たれ、個々の排泄用品もプライバシーに配慮して保管されている。ポータブルトイレについても洗浄に加え、バケツの天日干しにより居室内に臭気など無いように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で状況を把握し、飲食物の工夫を行い、個々に応じた対応を行っている。困難な利用者様は、主治医に報告をし服薬の併用を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中を中心にして、入浴支援を行っている。季節湯や変わり湯(よもぎや果物)など楽しめる入浴を行っている。1年に1回、近隣の温泉入浴を楽しみにしていたが、コロナ禍で出来ていない。	月曜から土曜まで午前中を中心に入浴を支援している。一番風呂が人気のように、希望を聞きながら対応している。浴室は排水口を含め丁寧な掃除が行われ、気持ちよく浴槽に浸かってもらっているが、身体状況からシャワー浴が中心の方もおられる。入浴拒否も無く、音楽を流すなど個々に応じて無理なく入ってもらえるよう支援している。また、季節湯や変わり湯など、入浴の楽しみを取組んでいる。	徒歩圏内にある温泉に行けない事は残念であるが、利用出来る日を楽しみに待てるような会話をしていきたいとしている。また、入居者と摘んだヨモギを使った薬草風呂など工夫が窺え、今後も効能などを語り合いながら入浴を楽しまれることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ日中の午睡を取り入れながら、昼夜逆転に繋がらないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。飲み忘れや誤薬を防ぐため、二重確認など徹底した取組みを行っている。本人の状態の経過や変化等を、定期的に医療機関へ報告することで、治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好まれる塗り絵やパズルなどを活動に取り入れ、楽しみある生活を支援している。洗濯物畳みや下拵えなど役割を持つことで、自分らしく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援が出来ていないが、施設内の畑見学や近隣の散歩などの支援を行っている。	外出は庭先や近隣への散歩など近場を好まれる方、車に乗って遠方に出かけたい入居者等、一人ひとりの要望を聞きながら支援している。自ら外出への要望として「散歩するから帽子を持ってきて欲しい。」「畑の草取りをしてる。」も挙り、一人での草取りを見守っている。また、日曜日は外出や入居者との関わりの日とし、感染症への対策を施しながらこいのぼり見学や季節の花見(桜やコスモスなど)を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホーム側で管理している。ホーム管理は、収支状況を記録し家族へ定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム側から現状報告を行う時や家族から連絡があった際は、本人と会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる花を、各場所に飾ることで落ち着いた空間作りに努めている。また、利用者と手づくりの貼り絵を作成し、ホーム内に掲示することで、季節感を取り入れている。	入居者と一緒に作成した作品の掲示や、敷地内に咲いたり近隣から届けられた草花がホーム内の随所に飾られている。季節ごとの壁面はユニットで工夫しており、職員の特技も生かされている。経年にあっても月当番を中心に、細やかな掃除が徹底されている。入居者は食堂やリビングのソファ、畳の間などそれぞれがゆっくり過ごせる環境である。	地域の拠り所となる様、敷地内の環境を整備し、訪れやすい環境に努力されている。今後も入居者、家族、地域の人々にとっても居心地の良いホームが継続されることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファを置くことで、気の合った利用者同士、またはひとりで思い思いに過ごすことが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物、テレビを設置するなど一人ひとりに合わせた部屋となっている。	部屋の位置によって採光に差異はあるが、広さも十分で使い勝手の良い居室には、馴染みの家具やカレンダー、遺影などが持ち込まれている。また、テレビを持ち込み楽しみな番組を見ながら就寝される方もおられるようである。転倒防止や安眠を妨げない灯りの工夫など、個別に対応している。日頃から小まめな換気に加え、基本的に畳ベッドであり日中は布団を敷いたままにしないことや、天候の良い日は努めて寝具を干し、気持ちよくやすむことが出来る様にしている。10月半ばから家族の面会が再開されており、居室内の確認など協力が得られることと思われる。	今後、再度面会を控えてもらう事態が発生した際は、引き続き家族に代わって居室内の環境や衣類の傷みなど細やかな報告により安心につなげていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など場所がわかりやすいように表示することで、自立した生活が送れるよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛 II		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	令和4年9月15日	評価結果市町村受理日	令和4年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍により家族や地域との交流に制限があるが、交流が途絶えないよう家族とは定期的に連絡を取り合い、また、地域とはこまめに挨拶を交わすなど可能な限り関わりを大切にしている。  
また、施設では利用者と一緒に野菜を育て、季節の移り変わりを感じながら収穫の喜びを共有している。利用者が 家庭的な雰囲気の中で、自分らしく生活ができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共生の生活づくり」を基本理念とし、更に事業目標を具体的に設定することで、職員が共有でき実践へと繋がられている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域交流は少ないが地域の奉仕作業に利用者に参加するなど、地域住民との関係性が途切れないうち努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実践経験を活かし、地域住民の相談を受ける等支援を対応していたが、コロナ禍で行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、開催はできていないが、書面にて情報を発信している。行政や地域の方、民生委員へは直接手渡し、意見や要望を聞き取りサービスに活かすことが出来ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政へは常に現状報告を行っている。行政からの通達はメールで届いているため、感染症対策など情報を反映させている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に、定期的に話し合いを実施、全職員に拘束をしないケアを徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で高齢者虐待防止関連法について確認し、理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識を深めることに努めている。該当者がある場合は、関係機関に助言、指導などを求めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、家族が納得いくような説明を心掛け、不安や疑問について十分な説明を行っている。また、利用料金変更の対応なども随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で、家族面会や家族会など意見や要望を受ける機会が少なくなった。定期的な電話連絡や面会時などに聞き取り、サービスの質の向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの意見や要望を聞く機会を設ける等、動きやすい職場環境に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見を聞く機会を設け、向上心を持って働けるような配慮や対応に努めている。また、業務改善委員会を毎月開催し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、管理者や職員一人ひとりの力量に合わせた、研修を動画で受けている。外部研修に関しては、WEB研修に参加するなど知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水俣、芦北グループホーム連絡会で情報交換等を行っていたが、コロナ禍で開催されていない。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅へ訪問し、生活状況や本人の不安や要望等を聞き取り、関係作りに努めている。また、スタッフ間で情報共有できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を密に行うことで、家族の意向や要望、不安などしっかり受け止めながら、関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、家族、本人の希望や要望を伺っている。状況によっては、関係機関と連絡を取り合い、必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しやりたい事、出来る事を見極め共に関わり、一緒に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取り生活状況、心身の様子等を家族に伝えている。家族の意向を聞きながら、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において継続は難しいが、できる限り馴染みの場所を訪れるなどの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。また、利用者が孤立しないよう、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も状態把握に努め、必要に応じて相談を受ける体制を取っており、これまでの関係を断ち切らないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話やコミュニケーションから、本人様の希望や思いを把握し実践へと繋げている。困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談しその都度対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、利用者からコミュニケーションの中で、情報を収集し日頃のサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時に個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望、また日頃の職員の気づきなどを取り入れながら、チームで話し合い介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。また、日々の状態を申し送ることで情報を共有し、実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者や家族のニーズに対し、出来る限り実現できるよう柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため積極的な実施はできていないが、コロナが緩和された時は、通いの美容室など本人の思いに添って出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と24時間の緊急時対応がなされ、より適切な医療が受けられている。また、専門医へは家族の希望を大切に、医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に看護師へ、状態や気づきなどを伝え相談することで、適切な診療や看護を受けることが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族に、回復状況の確認や情報をいただいている。また、主治医とは週1回の定例会議の中で、情報交換や相談ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくると、ホームでは対応できないことを入居前に説明を行っている。自分達に出来る支援の関わりを尽くし、入院などに至るまでの充実した対応を心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を定期的実施していたが、コロナ禍で行えていない。対応に不安な時は、管理者やかかりつけ医へ24時間連絡が出来るよう体制を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の災害訓練を行っているが、コロナ禍のため、近隣住民との合同訓練が実施されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いや気持ちを尊重しながら支援にあたっている。誇りやプライバシーを損ねないよう、スタッフ間で話し合い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、表情や反応を注意深く観察することに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者の状態や要望に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装などの好みを把握し、個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への感想を検食簿へ記入することで、次の食事支援へと繋げ、楽しみのあるメニューを心掛けている。時々ではあるが、利用者と一緒に下拵えを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物や飲み物の好み、習慣を把握し食事量や水分量を確保している。また、体調や体重の増減、食事のタイミングや食器の工夫など一人ひとりに合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状況に応じたケアを毎食後行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。必要に応じ、歯科受診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握している。紙パンツ使用の利用者へも、表情などから声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で状況を把握し、飲食物の工夫を行い、個々に応じた対応を行っている。困難な利用者様は、主治医に報告をし服薬の併用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中を中心にして、入浴支援を行っている。季節湯や変わり湯(よもぎや果物)など楽しめる入浴を行っている。1年に1回、近隣の温泉入浴を楽しみにしていたが、コロナ禍で出来ていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ日中の午睡を取り入れながら、昼夜逆転に繋がらないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。飲み忘れや誤薬を防ぐため、二重確認など徹底した取組みを行っている。本人の状態の経過や変化等を、定期的に医療機関へ報告することで、治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好まれる塗り絵やパズルなどを活動に取り入れ、楽しみある生活を支援している。洗濯物畳みや下拵えなど役割を持つことで、自分らしく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出支援が出来ていないが、施設内の畑見学や近隣の散歩などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホーム側で管理している。ホーム管理は、収支状況を記録し家族へ定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム側から現状報告を行う時や家族から連絡があった際は、本人と会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる花を、各場所に飾ることで落ち着いた空間作りに努めている。また、利用者と手づくりの貼り絵を作成し、ホーム内に掲示することで、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファを置くことで、気の合った利用者同士、またはひとりで思い思いに過ごすことが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物、テレビを設置するなど一人ひとりに合わせた部屋となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など場所がわかりやすいように表示することで、自立した生活が送れるよう工夫している。		